hirosaki
「話題」と「笑顔」を届ける総合情報誌　広報ひろさき
2015
4／15
No.220
お知らせ版

洋画家 佐野ぬいさん 名誉市民に

当市出身で、洋画の指導者として半世紀以上を女子美術大学（東京都杉並区）とともに過ごし、画家としても、女性抽象画家の第一人者として活躍している佐野ぬいさん。

その功績をたたえ、名誉市民の称号を贈ることが決まりました。

名誉市民とは、弘前市名誉市民条例に基づき、市民または当市にゆかりの深い人で、広く社会の発展および文化の興隆に貢献し、その功績が特に著しく、市民から深く尊敬されている人に対して贈られる称号です。現在の名誉市民条例は、平成18年2月の市町村合併時に制定しましたが、これまで選考されておらず、新弘前市としては初めての名誉市民となります。

佐野さんは、「佐野ぬいブルー」と呼ばれる独特な青を基調に、明快な色彩とフォルムで独自の世界を確立し、「青の作家」とも称される、日本を代表する洋画家です。

昭和7年、弘前市に生まれ、弘前中央高等学校卒業後、女子美術大学芸術学部洋画科へ入学。大学卒業後は、助手を経て、専任講師、助教授、教授、大学院教授を務め、平成11年に名誉教授、平成19年には、女性として2人目となる第16代学長に就任し、後進の指導にあたりました。この長年にわたる功労により、平成24年には、瑞宝中綬章を受章しています。

また、作家としての活動も続けており、「青」を基調とした作風の優れた作品を多数発表し、数々の賞を受賞したほか、弘前市立博物館（下白銀町）など市内をはじめ、青森県立美術館（青森市安田字近野）やパリなど国内外で展覧会を開催するなど、市民はもとよりたくさんの人々に芸術作品の鑑賞の機会を創出しています。

このほか、公共の場への作品の設置も行っており、昨年11月には、昭和39年の開館以来、市民の芸術・文化の発表、鑑賞の場として親しまれてきた弘前市民会館（下白銀町）に、開館50周年を記念し、佐野ぬいさんが原画を制作したステンドグラス「青の時間」（広報ひろさき3月1日号表紙に掲載）を設置しました。故郷である津軽弘前の、さわやかですがすがしい雪解けの空を思いながら、当市のために書き下ろしたものです。

市では、記念式典を開催し、名誉市民章などを贈り顕彰するほか、受賞を記念した企画展を7月に開催する予定です。

■問い合わせ先　政策推進課（☎40・7022）

▶佐野さんからのメッセージ

市民の皆様へ

このたびは、多くの皆様方のお力添えのおかげで、大変名誉ある賞をいただくことが出来ました。深く感謝申し上げます。

弘前市は、私の生れ育った故郷です。

今は、東京のアトリエで毎日絵を描いております。テーマはいつも「青」です。その青は、春が近くなって見上げた津軽の空です。

爽やかな感覚がいつも気持の中にあります。作品は、一人でも多くの方にごらんいただきたいと思っています。作品の中にはりんごの赤、雪の白、機関車の黒などが出て来ることもあります。そして懐かしい友人が一人二人と浮かんで来ます。お目にかかりたいですね。

絵の制作には終りがありません。今日も仕事場に入って行きます。

佐野ぬい